

ルカによる福音書24章36-49節 「手足を見せたイエス」

1A 新しい創造

1B 神の創造

2B 古い秩序(罪と死)

3B 新たにされる神

2A からだの復活 36-43

1B 幽霊ではないからだ 36-40

2B 親しく食事される方 41-43

3A 罪の赦しを得させる悔い改め 44-49

1B 預言の成就 44

2B 十字架の苦しみと復活 45-47

3B 証人の力 48-49

本文

今、読みましたルカによる福音書24章36節から39節までを見ていきたいと思いますが、まず、分かち合いたいことばは、コリント第二5章12節です。「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」キリストが、死んだのに、よみがえりました。そして、キリストのうちにある者、つまりキリストを信じる者も、新しくされます。そして、すべてが新しくなったとありますが、この天地すべてが新しくされる、ということです。キリストのよみがえりで、新しい創造が始まったのです。

1A 新しい創造

イエスがよみがえられた墓とされるところが、イスラエルのエルサレムにあります。可能性のあるところが主に二つありますが、その一つ、園の墓と呼ばれるところには、世界中からのキリスト者が訪れて、そこで神に賛美の歌をうたいます。また、聖餐式にもあずかります。イエスが引き裂かれたからだを覚えて、パンを裂いて食べます。また流された血を覚えて、ぶどう酒を飲みます。やって来る国はさまざまです。キリスト教というと、欧米の人たちがほとんどだと思われかもしれませんが、それは大間違いです。アジアの人は多いです。中南米の人たちも多いです。アフリカの人たちが、ほんとに多いです。実は、プロテスタントの信者が最も多いのは、アフリカの人たちです。つまり、イエスがよみがえったという出来事は、世界を巻き込んで影響を与えているということです。

1B 神の創造

それは何か？今、お話しした「新しい創造」が起こったからです。聖書は、天と地を神が造られたと教えています。六日で造られましたが、そのたびに、「よしとされた」と書いてあります。すべてを

造られた時には、「見よ、それは非常に良かった。(創世 1:31)」とあります。けれども、今の世界を見ますと、世界においても、自分の周りにおいても、また自分自身においても、非常に良かったというような状態ではありませんね。戦争は起こるし、天災はあるし、事件は起こるし、そして自分とその周りでは問題が絶えません。

そしてその中で、人々が避けている、タブー視している最も大きな禍は、死ぬことです。人が死ぬことは誰もが知っています。けれども、死が人に与える悲しみ、嘆き、苦しみはとてつもないものです。病というのも、その先に死があるかもしれないということで、私たちは恐れを抱きます。そうした根本の問題があまりにも深すぎるのですが、どうすることもできない問題なので、私たちは日常は、見て見ぬふりをしています。

キリスト教会は、その問題に、もろ、取り組んでいます。今風に言えば、「ガチで取り組んでいる」と言ってよいでしょう。キリストが十字架の上で死なれたことを覚えます。そして三日目によみがえられたことを覚えます。そして、キリストを信じる者は、その死に結びつき、よみがえりにも結び付いていると信じています。いわば、毎週日曜日、葬儀を行い、そこからのよみがえりを祝っているようなものです。普通の感覚では、到底、ついて来れないのですが、死からのよみがえりというものを、信仰を働かせることによって、週ごとに、また日ごとに味わっているのです。

2B 古い秩序(罪と死)

神が天地を造られた時、元々、今、私たちが見るような問題をもって造られたのではありません。けれども、神がご自分に似せて造った人が、ご自分の命じられたことに背いたので、そこから呪いが入りました。聖書では、神に背を向けることを「罪」と呼びます。自分を造った神なのですから、神により頼んで、この方に聞き従って生きるのが、本当の人の姿なのです。

ところが、人が神に背いて、神から離れてしまいました。それで生まれてくる子孫も、神から離れた状態で生まれてきます。いのちの源である神から離れているので、人は死んでしまいます。元々、神から離れているので死んでいると言えますし、この肉体もいつか滅んでいくのです。これが、死の始まりです。初めに神が造られた時は死ぬように定められていなかったのです。それなのに、死んでしまう。この矛盾の中に人は生きています。

一方では、いつまでも生きることを願っているのに、もう一方では必ず死ぬことを知っている。この狭間の中に生きてるので、私たちの心の深いところで苦しみ、うめいています。永遠のいのちについて話すとしばしば、「いや、今の人生だけで十分だ」との感想をいただきます。けれども、それは、初めの人々が罪を犯した後の、死を待たなければいけない世界の中で生きてるので、それがいつまでも続くことは、苦勞が多いから十分だと言っているに他なりません。

非常に賢かったソロモン王は、日の下で起こることは、すべて空しいと言いました。なぜなら、「神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。」ということだからです(伝道 3:11)。人はこの限られた人生しか与えられていませんが、けれども、永遠の思いも与えられています。この狭間の中に生きているのです。イエスは、ラザロという人が死んで、姉妹たちも、また知人や友人たちも泣いているのを見て、霊に憤りを感じ、涙を流されました。なぜなら、死によっていかに悲しみをもたらすかを知っておられたからです。そして、「ラザロよ、出てきなさい」と叫びました。墓から出てきたのです。

3B 新たにされる神

このイエス様のところを、神は抱いておられたのです。人にも、この世界にも罪と死の原理が働いています。何か新しいことを行おうとしても、なぜか同じことに帰結します。人々が文明の便益を思って、過酷な人の死をなるべく和らげるために科学を発展させていきましたが、今はその科学が、例えば核兵器による世界滅亡の恐怖があり、AI の技術による人々の生活への脅威となり、罪と死の原理から、抜け出せないのです。

神は、そこで、その罪を取り除くために、ご自分の独り子をこの世に遣わされました。イエス・キリストです。この方が神なのに、人の子として生まれて、この地上の生涯を経て、そして、ご自身が罪を犯していないのに、十字架という凶悪犯が罰せられるための極刑に処せられました。それは、この方が、私たちの負い目である罪を身代わりに背負われるためです。

しかし、イエスは墓の中に留まっていなかったのです。この方は何も悪いことをしていません。悪いことや罪から、完全に離れていた方でした。聖なる方、正しい方が死刑に処せられて墓の中にとどまったままにすることはできなかったのです。父なる神は、この方をよみがえらせたのです。三日目によみがえらせた。三度目の正直という言葉があるように、三は確認するような意味合いが聖書にもあります。三日目には、もう人は完全に死んでいます。それが確認された後に、神はキリストを死者の中からよみがえらせたのです。これが、新しい創造の始まりです。

まず、キリストを信じる者に、新しいいのちが与えられます。罪の中で死んでいたけれども、この方に信頼することによって、罪が赦され、清められ、新しいいのちが与えられます。だから、これまで空しく、希望なく生きていた者たちが、希望に満ちて生きることが許されるのです。そして終わりの日に、このからだも、死んでもよみがえることを知っています。そして、神はさらに、この天地を新しく造られます。今は、どんどん世界が悪くなり、滅びに向かっています。しかし、主イエスが再び戻ってこられて、神の国を地上に立てられます。そして、最後に、この天と地が過ぎ去り、新しい天と地が造られます。その時に、すべてが新しくなるのです。

キリストにある者は、自分が新しく造られた時に、このすべてが新しくなるという終わりの時も知

って、あたかもすべてが成就したかのように喜び叫ぶのです。キリストがよみがえられたと聞く時に、自分が新しくされたことを知り、また世界のすべてが新しくされることも心から知っているのです！それで、キリストを知る者たちはみな、喜び叫び、心が踊るのです。

2A からだの復活 36-43

けれども、そんな話は本当なのか？と思われるでしょう。もしそんな話が本当でなければ、単なる嘘つきであり、すべて空しく、哀れなことです。すべてのことが、イエスの復活の事実にかかっているのです。そこで今、読んだ箇所があります。

1B 幽霊ではないからだ 36-40

³⁶ これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。³⁷ 彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。

時は、三日目です。夜明けの時に、女たちがイエスの墓に行きました。当時の墓は、洞穴にしたところを使っていました。そこに石を転がして閉じます。女たちがやってきた時に、石が転がしてありました。すると、衣が輝いている人が二人いました。そして、イエスがよみがえられたというのです。彼女たちは弟子たちに伝えましたが、彼らには、たわごとのように思えました。しかし、ペテロは立ち上がり、走って墓に行きます。そして弟子たちのうち、二人がエマオという村に向かって歩きますが、そこでイエスが共に歩かれます。そして宿に泊まりましたら、イエス様が食事の席でパンを裂いている時に、彼らがイエスだと分かりました。そうしたら、その姿が見えなかったのです。二人はエルサレムに戻ってきました。

それで、二人がこのことを他の弟子たちに話していると、イエスご自身が真ん中に現れたのです。彼らは、幽霊を見ているのだと思って、震えあがっています。そのこともご存じで、イエス様が彼らの真ん中に現れた第一声は、「平安があなたがたにあるように」でありました。

³⁸ そこで、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。

³⁹ わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」⁴⁰ こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。

そうです、ここが、最も大事なところですよ。よみがえられたイエスが、本当によみがえられたのかどうか？姿を現したり、消えたりしているので、それが霊だと思われても仕方ありません。しかし、今、見ているのは幻視でもなく、幽霊でもなく、肉や骨のあるからだを持っておられた、復活のすがただったのです。手足を見せたら、そこには釘が打たれた跡がありました。ですから、これで確かに、十字架につけられたあのイエスが、確かに死なれて、葬られたけれども、今、よみがえってい

るということなのです。

復活というのは、死んだから復活といいます。よみがえる前に、すでに死んでいるということを認めるところから、良き知らせ、福音が始まります。日本では、人が死ぬことを忌み嫌います。人は死なずに、霊が残っていて、そのまま生きるのだとしています。人が死んでいても、その人は生きていてくれるのだと願い、映画では、他のからだをもってその人が現れる内容のものが、非常に多いのです。人が死ぬということを、受け入れられないのです。

しかし、人は死ぬのです。そこに、その人のしたすべてのことが葬り去られるのです。そして、これが一人一人の生き方に関わってきます。人は、罪のゆえに、理想の姿に、完全な姿に生きることができません。良いことをすることすらできません。会社のことを考えてみましょう。どれだけの会社が、倒産をして、再建をする決意ができるでしょうか？多くの会社が、すでに倒産していることを認められず、それゆえに再建の手続きに入れません。それは、もう自分たちの経営が破綻している、死んでいることを認められないからです。再びやりなおすには、自分がもっと頑張るのではなく、自分自身がすでに何もできず、その何もできない自分を差し出すことによって始まります。

それが、人生でも同じです。自分を造り、自分に命を与えた方に対して、破綻した自分自身をそのまま差し出すのです。自分が罪を犯し、罪の中ですでに死んでいることを認めるのです。その自分を神の前に差し出します。その時に、キリストにあって神はあなたを再び生かすことができます。

そして、イエスが復活されたというのが、血肉があるからだでよみがえりました。同じように、人が新たに生きる時は、私たちが肉眼で物事をはっきりと見ていると同じように、イエスが生きていることを生活のど真ん中で知るのです。心の気休めではないのです。この方が生きていることを、信仰によって、はっきりと知ります。

新約聖書には、何百もの人がイエスの復活を見たという証言があります。これらが書かれたものの多くが、20-30年後です。数多くの証人がいますから、嘘をでっちあげたらすぐにばれます。そして、復活したことを証言した弟子たちは、次々と殉教しました。もしでっちあげたことであれば、だれか一人でも、拷問を受けたら自供することでしょう。けれども、しなかったのです。

そして、もしイエスの復活がなければ、どうしてそのことを信じた人たちの生活が、変わるのでしょうか？心の安定剤で変わりますか？私は、高校生の時に自殺願望が始まり、信仰をもってから消えました。知人には、元麻薬常習者がたくさんいます。大きな教会の牧師さんは、脳神経外科のところで、これまで摂取したことのある麻薬にチェックを入れてと言われました。そこに列挙されている薬物だけでなく、それ以上も新たに書き込みました。そしてお医者さんに聞きました。「これらを摂取したら、直る見込みはありますか？」お医者さんは、医学的、科学的見地から不可能と断

定しました。けれども、その人に私も、何度か会っていますが、真っ当な人生を送り、牧師もしているのです！そのような人たちが、この教会にも、これが心の気休めで、実体がないのに変えられることはできるのか？ということなのです。

2B 親しく食事される方 41-43

⁴¹ 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。⁴² そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、⁴³ イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。

主が、食事をしておられます。この時が弟子たちは、イエスとの最も親密な時間でした。それを、鮮明に思い出すかたちで、血肉があることを示されたのです。イエスは、自分がこれまで神に背いてきたことを思い直し、神に従うことを決めた人々には、生きて、親しくしてください。「黙 3:19-20 わたしは愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」

3A 罪の赦しを得させる悔い改め 44-49

1B 預言の成就 44

⁴⁴ そしてイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたと一緒にいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについて、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」

イエスの死について、また復活について、それがおとぎ話でも何でもなく、もう一つの大きな証拠は、何百年も前から、すでに旧約聖書の中に預言されていたことです。占いのような、曖昧なものでは全くありません。地名や活動など、イスラエルを救う方、メシア、キリストが何をするのかをはっきりと語っているものが、何百とあります。それを、イエスの生涯にあってことごとく成就したというのが、福音書の記録なのです。他の宗教、例えば仏教の仏陀、イスラム教のムハンマドが、前もって預言されていたということは一切ありません。けれども、イエスについては前もって、千数百年にもわたって、何十人の人々によって告げられていました。

2B 十字架の苦しみと復活 45-47

⁴⁵ それからイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、⁴⁶ こう言われた。「次のように書いてあります。『キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、⁴⁷ その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』エルサレムから開始して、

聖書に前もって書かれていたのは、第一にキリストが苦しみを受けることです。私たちの罪のゆ

えに、身代わりになって罪を背負い、十字架にはりつけになりました。第二に、三日目によみがえられることです。第三に、その名によって、罪の赦しを得ることです。このことも、聖書には何度となく書かれています。神は憐れみに豊かですから、悔い改めることによって、すべての罪を赦してください。「イザ 55:6-7 【主】を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。【主】に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。」

3B 証人の力 48-49

⁴⁸ あなたがたは、これらのことの証人となります。⁴⁹ 見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

父から約束されたものとは、聖霊です。神の聖なる霊が、信じる者たちに注がれます。そして、イエスの証人になります。イエスが生きておられることを、知ることができるのは、唯一、神の聖霊によります。そして、聖霊の力によって、私たちはイエス様が確かに生きていることを示すことができます。

このようにして、主が生きておられることを、今、ここにいる一人一人の方が知ることができます。この方を信じ、受け入れてください。自分の罪を悔い改めて、神に立ち返ってください。そうすれば、確かに救われて、聖霊が与えられます。